

苫小牧市人流データ分析システム利用ヒアリング実施要領及び評価基準

1 審査

ヒアリング、要件対応表、企画提案書及び提案価格の評価は、苫小牧市人流データ分析システム利用業者選定委員会（以下、「選定委員会」という。）を設置して行う。

2 評価及び選定

提案者が4者以上の場合は、書類審査を実施し、ヒアリング審査の対象者を上位3者に選定する。なお、提案者が3者以下の場合は、書類審査を実施せず、全提案者を対象にヒアリング審査を実施する。

(1) 書類審査の実施

提出書類の内容を基に、事務局による書類審査を実施する。事務局による審査は、「(3) 書類選考の評価基準」の各項目に基づき、採点するものとし、ヒアリング審査に当該評価結果を引き継がないものとする。

書類審査の採点結果は、令和8年9月14日の週に開催する選定委員会において審議し、承認が得られ次第、全ての提案者に対して、評価結果として通知するものとする。結果の公表は、全提案事業者の名称（五十音順）、全提案事業者の評価点（得点順）のみ行うものとする。

(2) ヒアリング審査の実施

(ア) ヒアリングは、令和8年10月5日の週の指定する1日にて、苫小牧市役所にて行うものとするが、開始時間及び実施場所は別途通知する。

(イ) ヒアリングの内容は、「(4) ヒアリング審査の評価基準」に基づき、採点するものとする。

(ウ) ヒアリングは、1者ずつの呼び込み方式とし、1者の持ち時間は45分以内とする。また、ヒアリングの構成は、プレゼンテーション30分と質疑15分とする。プレゼンテーションは、企画提案書「第2章 機能要件」に関するデモを交えて実施すること。デモは、①第71回とまこまい港まつり（令和8年8月7日から8月9日）の来場者分析と、②カムチャツカ半島付近の地震（令和7年7月30日）に伴う津波警報発報時の避難者分析をテーマとして、提案システムの機能を生かした実演を行うこと（機能毎に①、②のテーマを使い分け可）。また、上記のテーマでデモを実施することが困難である場合は、本市のエリアデータを活用して観光・防災等のデモを2つ実施すること。

(エ) ヒアリングは、一般非公開とする。

(オ) ヒアリング内容は提出のあった提案内容に基づくものとし、資料の追加提出は認めない。

(カ) ヒアリングにおいては、企画提案書では説明が難しい点やアピールしたい点について行うこと。この説明においては、ワイドモニター等を使用することができる。

また、ワイドモニター等は本市で用意可能だが、その際はあらかじめ担当部署に連絡すること。パソコン等その他機材については提案者が用意すること。

(キ) ヒアリングの説明者は補助者を含めて3名までとする。

(ク) 欠席をした場合は、企画提案書の審査、評価及び選定から除外する。

(ケ) 選定委員会の委員が、評価採点を行う。

(3) 書類選考の評価基準

要件対応表及び実績一覧（直近２年間）により、下表で示す評価項目・配点・評価基準に基づいて、審査及び評価を行う。なお、要件対応表に「△（一部対応）」を記載されている場合であっても、備考欄の記載内容が「×（非対応）」に相当すると判断される場合は、「×（非対応）」と採点する。

<評価項目・配点・基準>

区分	評価項目	配点	評価基準
1	対象範囲	5	✓ 本市域に限定されず、全国又は任意の自治体・地域を対象として分析できること。
2	エリア設定	3	✓ 住所・施設名により、地図上で分析対象エリアを柔軟に設定できること。
3	エリア設定	3	✓ 円により、地図上で分析対象エリアを柔軟に設定できること。
4	エリア設定	3	✓ 任意の多角形により、地図上で分析対象エリアを柔軟に設定できること。
5	エリア設定	3	✓ 行政区域により、地図上で分析対象エリアを柔軟に設定できること。
6	エリア設定	7	✓ 1つの分析対象エリアとして設定可能な最大面積が、本市の行政課題に係る広域的な分析を行う上で十分であるか。（○：市内全域以上、△：半径 500m 以上～市内全域未満、×：半径 500m 未満）
7	エリア保存	5	✓ 分析対象エリアを保存し、同一条件で繰り返し分析できること。（○：500 地点以上、△：300 地点以上、×：300 地点未満）
8	解像度	7	✓ 人流を精細な単位で分析又は表示できること。（○：10m メッシュ以下、△：100m メッシュ以下、×：100m 超）
9	データ品質	3	✓ データの取得元を明示できること。
10	データ品質	3	✓ 利用許諾を明示できること。
11	データ品質	3	✓ サンプル規模を明示できること。
12	データ品質	3	✓ 取得間隔を明示できること。
13	補正処理	7	✓ 国勢調査等の公的統計に基づき、性別・年代等のデータの偏りを補正し、拡大推計できること。
14	時間条件	7	✓ 日時、期間、時間帯、曜日、平日・休日及び滞在時間等を指定して分析できること。

区分	評価項目	配点	評価基準
15	時間条件	5	✓ 分析対象となる人流データについて、基準日時点から遡って連続する期間のデータを保有していること。（○：5年以上、△：2年以上、×：2年未満）
16	属性分析	3	✓ 滞人口又は来訪者数を、性別と各年代別に分析できること。
17	属性分析	3	✓ 滞人口又は来訪者数を、18歳以上と18歳未満で分析できること。
18	属性分析	3	✓ 滞人口又は来訪者数を、勤務者と来街者を区別して分析できること。
19	属性分析	3	✓ 滞人口又は来訪者数を、推定居住地（市内外在住）別に分析できること。
20	通行量	7	✓ 道路単位又は任意の地点・エリアにおける通行量を算出し、属性別、方向別等で分析できること。
21	移動手段	5	✓ 徒歩、自動車、自転車等の交通手段別に人流を分析できること。
22	回遊分析	5	✓ 来訪前後の立ち寄り先、移動元・移動先又はエリア内の回遊傾向を分析できること。
23	時系列分析	5	✓ 時間の経過に伴う人流又は滞在状況の変化を分析・表示できること。
24	統計連携	5	✓ 国勢調査等の公的統計又は本市保有データと人流データを併用して分析できること。
25	可視化	7	✓ 分析結果をヒートマップ、地図、グラフ、表等により直感的に可視化できること。
26	データ出力	5	✓ 分析結果又は集計データを、CSV又はExcel形式等で出力できること。
27	生成 AI 活用	7	✓ 生成 AI を活用した自動分析及び資料作成機能を有していること。
28	データ所有権	5	✓ サービス上で個別に収集分析したデータ、及びそのデータを用いて加工したデータの所有権は本市に帰属していること。
29	データ活用	5	✓ 本市が取得又は作成した成果物を加工及び公表できること。
30	データ活用	5	✓ 本市が契約期間中に取得又は作成した成果物について、契約期間終了後も引き続き利用できること。
31	アカウント	5	✓ 利用を希望する職員が、同時にシステム接続できること。（○：5人以上、△：3人以上、×：3人未満）
32	支援体制	5	✓ 操作説明会、マニュアル、問い合わせ対応の環境を提供できること。

区分	評価項目	配点	評価基準
33	支援体制	5	✓ 障害発生時の報告・復旧体制を提供できること。
34	類似実績	5	✓ 地方公共団体における人流データ分析システム利用に係る直近 2 年間の実績を有すること（○：5 件以上、△：3 件以上）。 ✓ なお、上記は再委託による実績を含むことができるが、○の場合は 2 件以上、△の場合は 1 件以上、地方公共団体から直接受託した実績であること。

評価尺度（評価基準毎に 3 段階で評価、以下の通り配点に応じて点数を変動とする）

「○(7) / △(4) / ×(0)」、「○(5) / △(3) / ×(0)」、「○(3) / △(1) / ×(0)」

(4) ヒアリング審査の評価基準

企画提案書及びプレゼンテーション、質疑応答により、下表で示す評価項目・配点・評価基準に基づいて、審査及び評価を行う。ただし、価格評価については、事務局が一定の評価方法を示し、選定委員会における承認をもって、その評価方法を採用するものとする。

<評価項目・配点・基準>

区分	評価項目	配点	評価基準
1	会社概要・類似実績・業務理解	10	✓ 本市の行政課題を的確に把握し、客観的なデータを活用した EBPM（証拠に基づく政策立案）による効率的かつ効果的な行政経営の推進に資する提案となっているか。 ✓ 類似業務の実績が本件に有効であることが説明されているか（件数・規模・成果等）
2	分析対象エリア	10	✓ 全国又は本市域外を含む広域的な分析が可能であり、来訪元や広域避難等の把握に必要な地域を対象にできるか。 ✓ 住所、施設名、行政区域、地図上の任意指定、円、多角形等により、会場、周辺、道路、避難場所、避難対象区域等を適切に設定できるか。 ✓ 設定したエリア及び分析条件を保存し、同一条件による再分析や継続的な比較分析ができるか。
3	データ要件	15	✓ 会場、周辺道路、施設、避難場所、沿岸部等の人流を把握するために必要な空間的精細度を有しているか。 ✓ 国勢調査等の公的統計を用いた補正・拡大推計の方法が合理的であり、性別、年代、居住地等の偏りへの対応が説明されているか。 ✓ 速報値と確定値の違い、データの更新時期及び分析値の信頼性について、分かりやすく説明できるか。

区分	評価項目	配点	評価基準
4	分析機能	15	✓ 滞在人口、来訪者数、通行量等を時間帯別に分析し、その推移やピークを把握できるか。 ✓ 性別、年代、推定居住地、居住者・来訪者等の属性別分析ができるか。 ✓ イベント開催日と通常日（昨年状況）、地震発生日と比較対象日等、複数の期間・条件を比較できるか。
5	操作性	15	✓ Web ブラウザ上で、ログイン、エリア設定、期間設定、条件変更、分析実行、結果確認まで直感的に操作できるか。 ✓ 操作画面の構成、メニュー、用語、単位及び比較表示を少ない操作で行えるか。 ✓ 操作誤りを防ぐ案内、入力補助、ヘルプ、エラー表示等が充実しているか。
6	可視化、出力及び資料活用	15	✓ 人流の分布、集中箇所及び時間的变化を、ヒートマップ、地図、グラフ、表等で直感的に把握できるか。 ✓ 開催日と通常日、発災時と平常時など、比較対象との差を分かりやすく表示できるか。 ✓ 分析結果又は集計データを CSV、Excel、画像、PDF 等の実務で利用及び分析しやすい形式で出力できるか。 ✓ 出力した図表等を庁内説明資料、議会資料、計画書、報告書及び市民向け資料に活用しやすいか。
7	ライセンス	5	✓ 利用を希望する職員がアカウント・ライセンス体系を提供できるか。 ✓ 希望する職員が同時に何人まで接続できるか。
8	セキュリティ	5	✓ 個人が特定されないような適切な匿名化・統計加工がおこなわれているか。 ✓ アクセス管理、通信暗号化、ログ管理、データ保管、再委託管理、障害・インシデント対応等、情報セキュリティ及び個人情報保護に関する対策が十分であるか。
9	所有権、二次利用等	10	✓ 出力データ、分析結果、図表、レポート等について、市が業務目的で利用できる範囲が明確であるか。 ✓ 庁内利用、議会資料への掲載、計画書・報告書への掲載、市民向け公表等に支障がないか。 ✓ 第三者の著作権等を侵害しないことが担保されているか。 ✓ 契約終了後の取得済み成果物の利用可否が明確であるか。
10	サポート体制	10	✓ 操作研修、利用マニュアル、問い合わせ対応、活用相談、障害発生時の復旧・報告体制が十分であるか。

区分	評価項目	配点	評価基準
			✓ 複数部署での利用を想定し、職員が自走して分析・活用できるよう支援する体制が整っているか。
11	価格	10	✓ 見積価格および内訳の妥当性 ✓ 次年度以降の参考見積価格の妥当性

評価尺度（評価基準毎に 5 段階で評価、配点に応じて点数を変動、()内の点数の倍数とする）

「特に優れている(5) / 優れている(4) / 普通(3) / やや不十分(2) / 不十分(1)」

(5) 受託候補者の特定

選定委員会の委員による評価採点の後、選定委員会を開催し、各委員の評価採点を合計した後、総得点の 6 割以上を獲得し、かつ、採点した合計点が最高得点の者を受託候補者に特定する。

3 結果通知

苫小牧市人流データ分析システム利用に関する公募型プロポーザル実施要領「15 結果の通知・公表」のとおり行うものとする。